

吉野彰氏ノーベル賞

化学

リチウムイオン電池開発

吹田出身、旭化成名誉フェロー

【ストックホルム共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは9日、2019年のノーベル化学賞を旭化成名誉フェローで名城大教授の吉野彰氏(71)＝大阪府吹田市出身＝ら3氏に授与すると発表した。スマートフ

オンなどに使われるリチウムイオン電池を開発し、現在の情報化社会を支える成果として高く評価された。日本人のノーベル賞受賞は27人目で、昨年、医学賞に選ばれた本庶佑京(77)に続く快

挙。化学賞は10年の鈴木章(89)と根岸英一(84)以来で8人目。共同受賞は、米テキサス大オースティン校のジョン・グッドイナフ教授(97)ら。グッドイナフ氏はノーベル各賞を通じ最高齢受賞となる。

リチウムイオン電池は何度も充電して使える2次電池。正極と負極の間をリチウムイオンが移動して充電や放電する。吉野氏は1980年代、炭素材料の負極とコバルト酸リチウムの正極を組み合わせ、基本的な構成を確立した。

受賞



ノーベル化学賞の受賞が決まり、笑顔を見せる吉野彰旭化成名誉フェロー＝9日午後6時49分、東京都千代田区